

## 船舶事故調査報告書

令和5年3月22日  
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	乗揚
発生日時	令和4年6月26日 10時30分ごろ
発生場所	香川県小豆島町地蔵埼北西岸 地蔵埼灯台から真方位280° 450m付近 (概位 北緯34° 25.0' 東経134° 13.8')
事故の概要	プレジャーボート英丸は、漂流中、陸岸に乗り揚げた。
事故調査の経過	令和4年8月26日、主管調査官（広島事務所）を指名 原因関係者から意見聴取手続実施済
事実情報	
船種船名、総トン数	プレジャーボート 英丸、1.93トン
船舶番号、船舶所有者等	280-46304香川、個人所有
乗組員等に関する情報	船長、一級小型
負傷者	なし
損傷	船底に擦過傷
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 南西、風速 約5m/s、視界 良好 海象：波高 約0.5m、潮汐 下げ潮の初期
事故の経過	<p>本船は、船長が1人で乗り組み、友人2人を乗せ、釣りの目的で、地蔵埼北西岸約30m沖において、船首を南東方に向け、主機を停止して漂流した。</p> <p>船長は、本船が南西方からの風波に圧流されて陸岸に近づくので、陸岸からの距離が約20mを切った辺りで潮上りを行う予定にしていた。</p> <p>船長は、右舷船首付近で釣りをしていた友人に当たりがあり、陸岸まで少し距離があったので、タモで魚をすくい上げようと操縦席を離れて同友人の所へ行った。</p> <p>本船は、船長がタモで魚をすくい上げていたところ、風波に圧流されて地蔵埼北西岸に乗り揚げた。</p> <p>船長は、浸水等がなかったので潮が満ちてから離礁しようと考えていたところ、他船からの通報を受けて来援した巡視艇の乗組員の指示に従い、錨を入れた後、友人の船に救助を依頼した。</p> <p>本船は、潮が満ち、友人の船に引き出され、自力で航行して帰港した。</p> <p>船長は、陸岸までまだ距離があるので大丈夫と思い、タモで魚をすくい上げることに集中し、周囲の状況を見ていなかったため、陸岸に接近していることに気付かなかったと、本事故後に思った。</p> <p>本船の喫水は、船首約0.3m、船尾約0.8mであった。</p>
分析	本船は、南西方からの風波によって陸岸へ圧流されている状態で、

	<p>主機を停止して漂泊中、船長が陸岸までまだ距離があるので大丈夫と思ひ、友人の釣った魚をタモですくい上げることに意識を集中させていたことから、陸岸近くまで接近していることに気付かず、地蔵埼北西岸に乗り揚げたものと考えられる。</p>
<b>原因</b>	<p>本事故は、本船が、南西方からの風波によって陸岸へ圧流されている状態で、主機を停止して漂泊中、船長が陸岸までまだ距離があるので大丈夫と思ひ、友人の釣った魚をタモですくい上げることに意識を集中させていたため、陸岸近くまで接近していることに気付かず、地蔵埼北西岸に乗り揚げたものと考えられる。</p>
<b>再発防止策</b>	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 船長は、操船から離れて他の作業を行う際にも、周囲の見張りを適切に行うこと。</li> </ul>